



白樺の幹に身をたせ
うつつなくがむる山のおきふし——かすか
てきらくの海原どよめ、心にくしや
ひびき來るも、あはれ船笛 淋しく
あゝ小樽

緑、白、オブラは風ささどめき
うまごやし 白く赤く、まばたきかはし
あゝ 紺のサータの服ののどけく
緋くは——モロツコ革の手ざわり
あゝ緑ヶ丘

から松熊笹をつられて
紅葉の二もと一もと
そのふもとだんだらまぢの
めまぐるしくも眼ひきそふ
あゝ小樽

今しかから松 おごろみだして
細く黒く はびこりやまれ
コバルトの空をうけて
日ざしきしそぐ 白がれの丘へ
あゝ緑ヶ丘



十一年道行り

り

ちきん

わにん

花



長 校 前 邊 渡



敬事而信



掠湖



長 校 伴



學 校 全 景



岡ケ縁



樽小ルタ見リヨ庭校



木館正面



木館裏景



學校俯瞰



館 書 圖



室 官 教



室 長 校



室 議 會



堂 講 假



グンイテイラブイタ



寺田教授



中村教授



苦米地教授



商物品館内



室 究 研 査 調



教 ズ ン ヨ ジ



授 教 瀬 村



授 教 名 権



授 教 原 佐



室 踐 實 營 擬

小瀬教授



小原教授



顯微鏡實習室



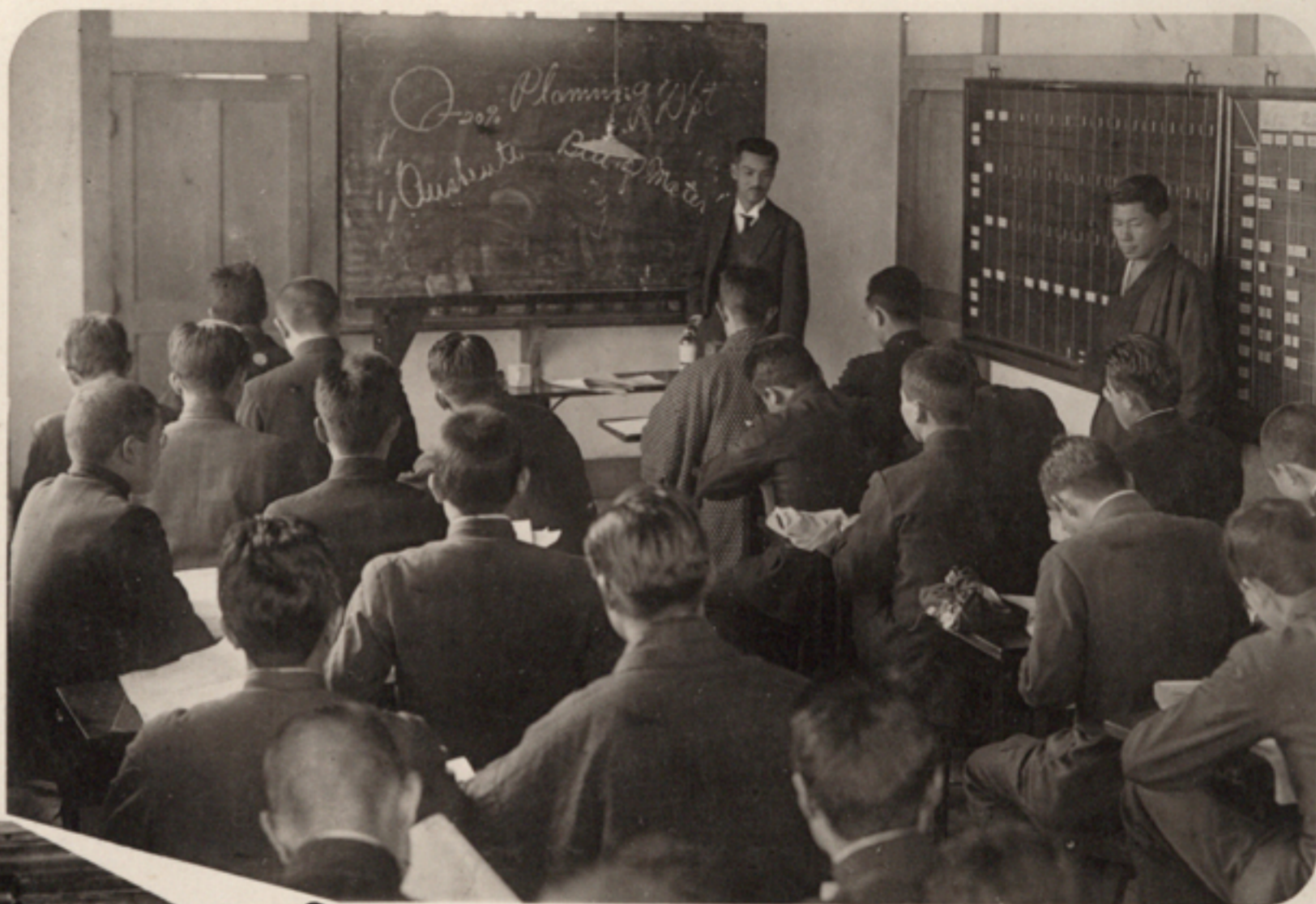
化學實驗室



ラフン教授



岸根教授



企業實踐室



實踐工場



西田教授



伊藤助教授



螺旋階段



下廊(本館)



消費組合



室 教 併 合



國松教授



武田教授



小尾教授



高岡講師



高島教授



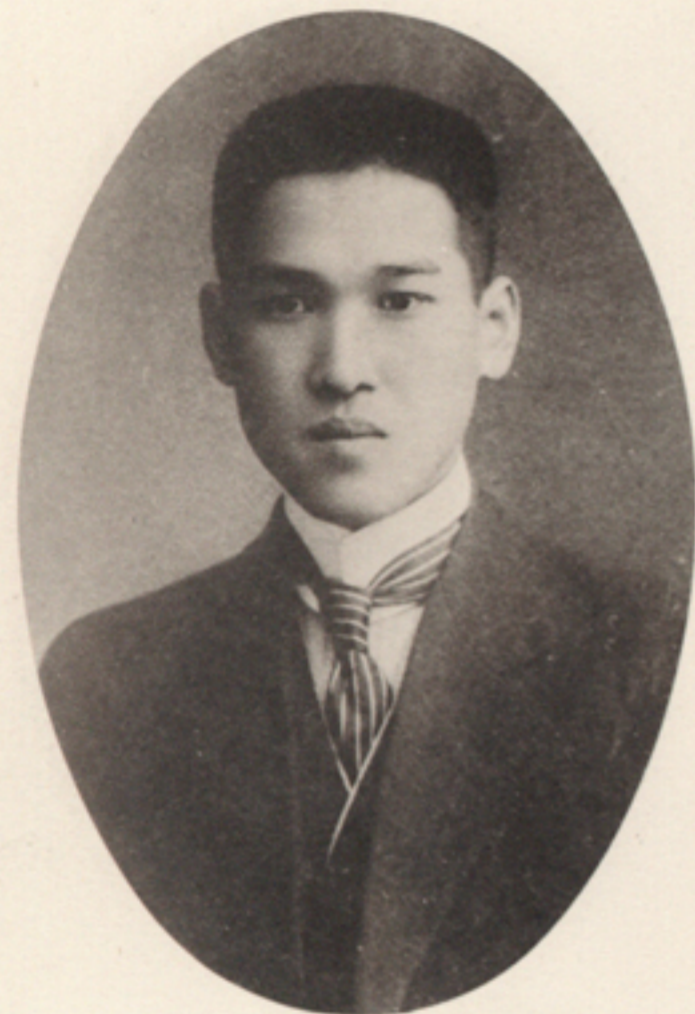
大西教授



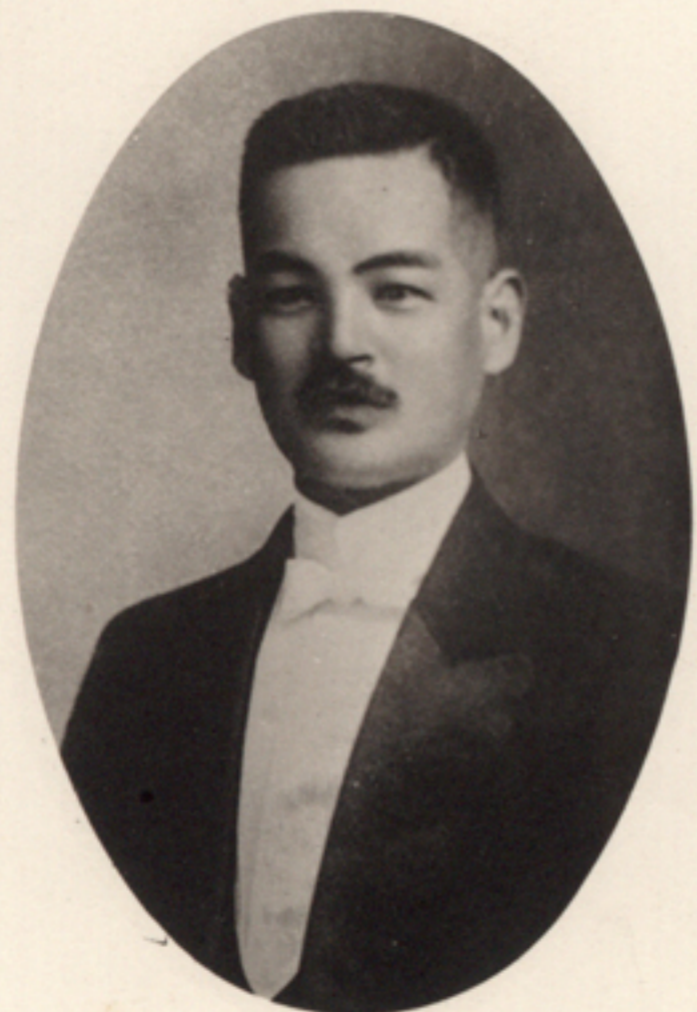
授教浦井



授教浦三



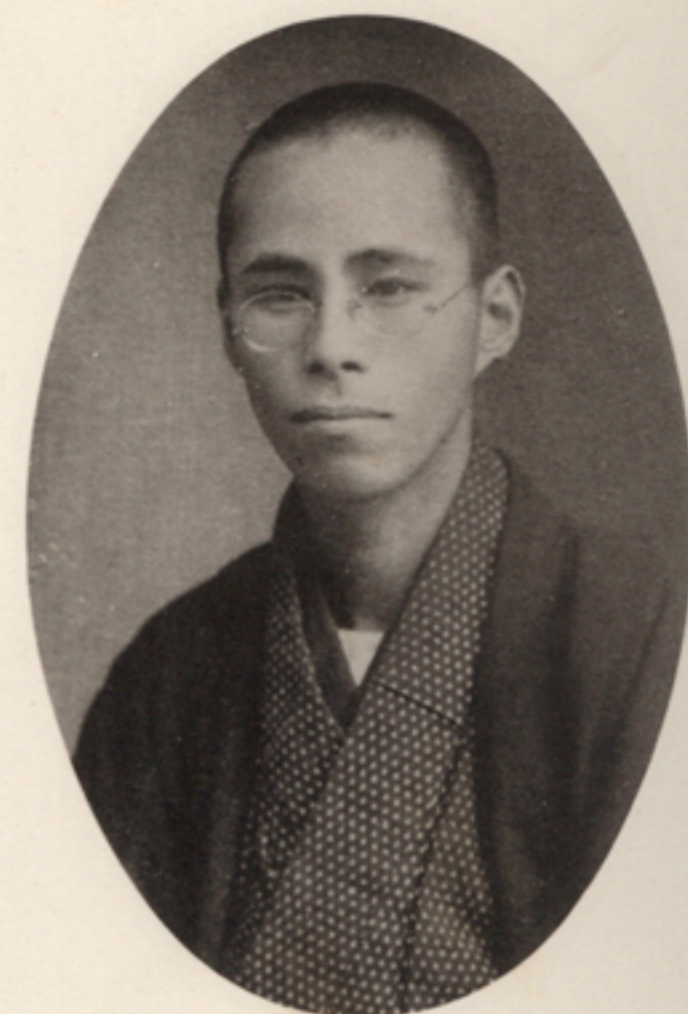
授教松高



授教前川谷長



授教前木八



授教塚手

濱
林
教
授



中
村
教
授



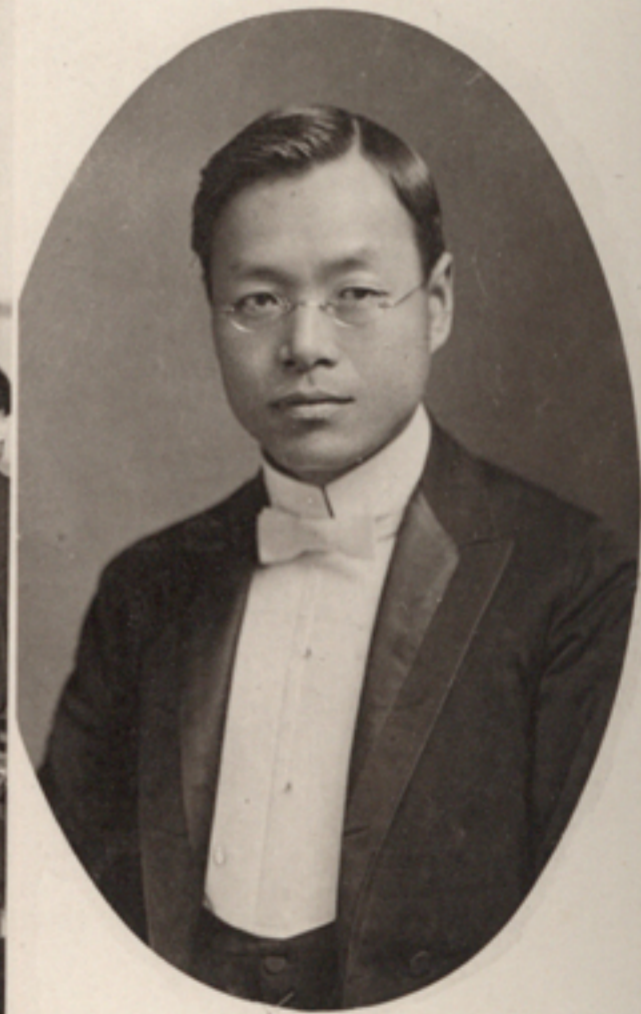
卜
部
教
授



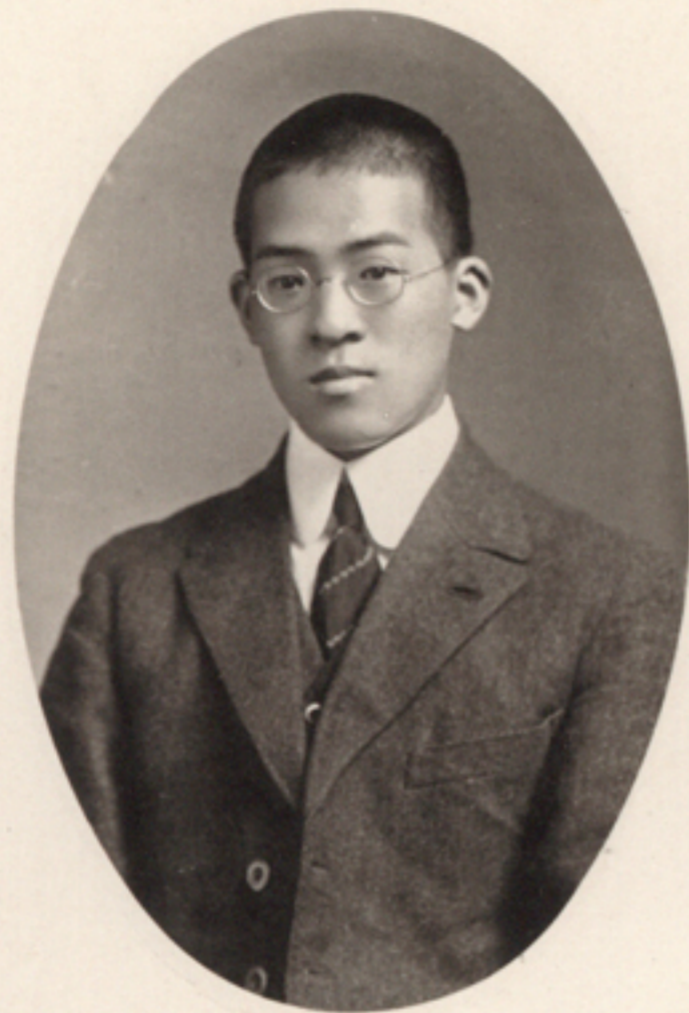
小
林
教
授



教
室



大
平
教
授



授教助黒目



授教橋石



授教助尾西



師講來根



授教助詰橋



授教助森大



師 講 藤 加



師 講 管



師 講 幡 小



師 講 熊 大



師 講 井 櫻



師 講 崎 宮



師講前溝横



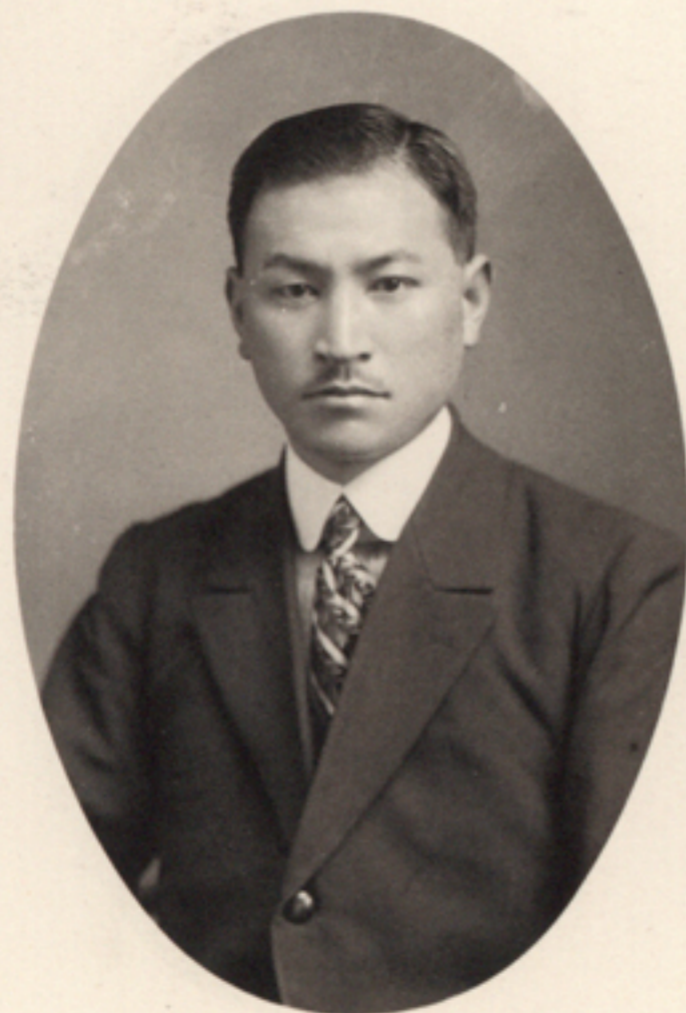
授教助前畑長



師講前島留久



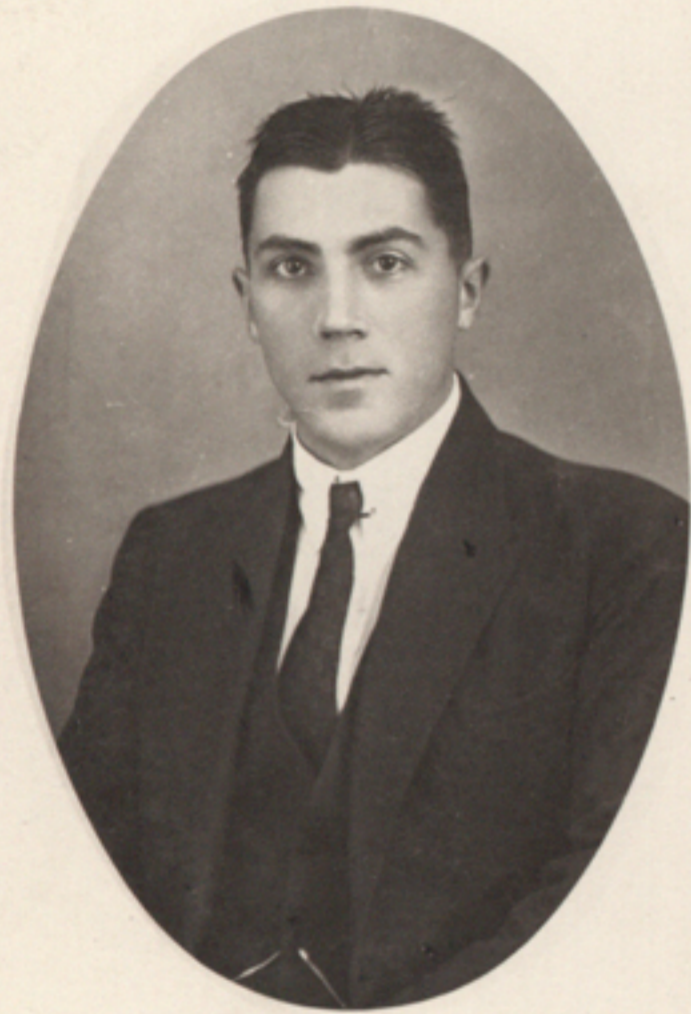
授教助村野



師講坂松



託囑岡原



師教ンゲーデ



師教ンノンキツマ



師教關



師教一キスフネ



師教前ーレグバ



師教ズンウラ



校 庭



公 園



同 一 生 業 卒 及 員 職



男 節 上 井



郎 治 藤 伊



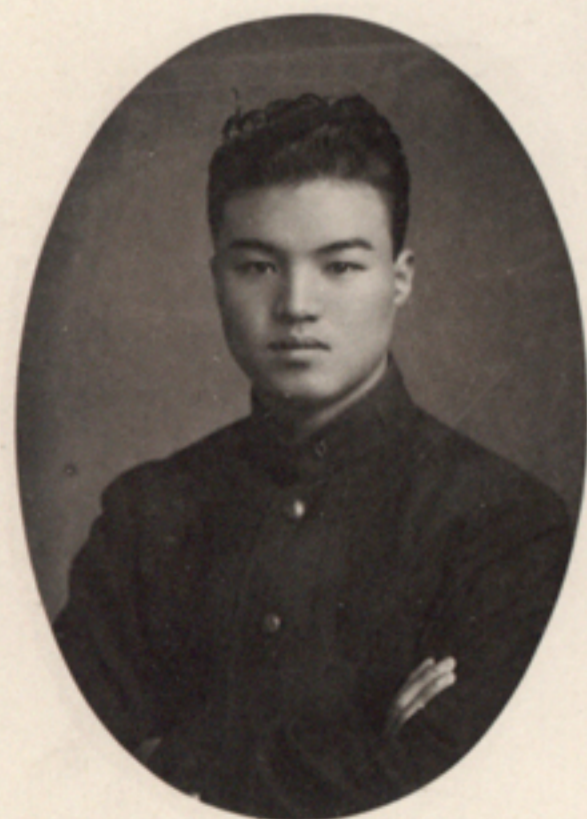
郎 四 瀨 岩



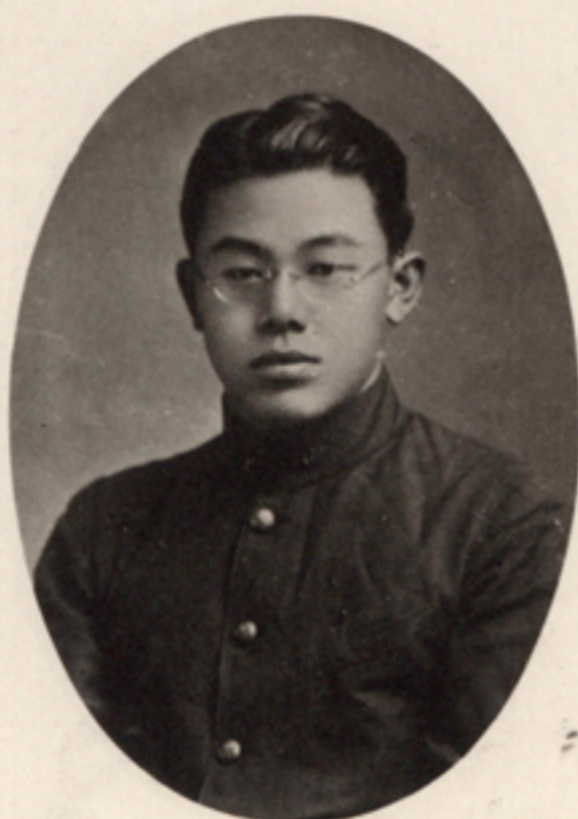
彌 德 井 今



郎 次 英 井 今



一 喜 林



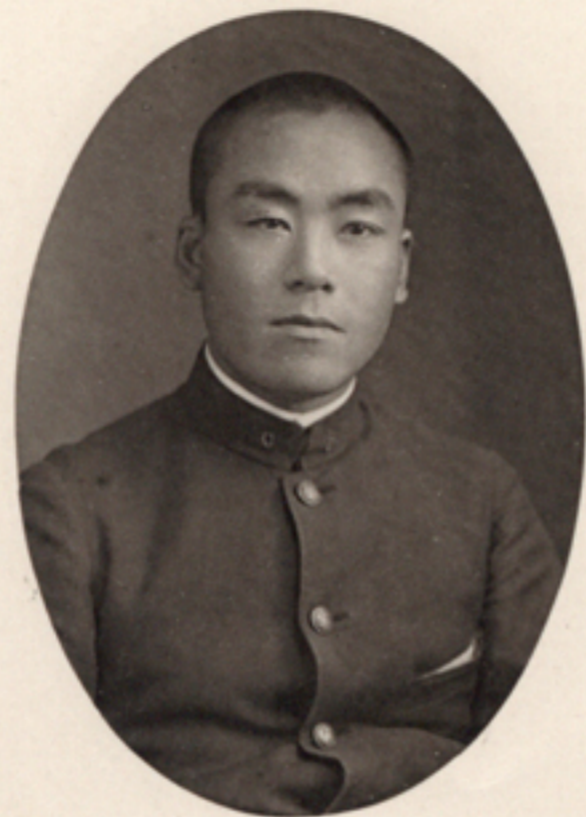
雄 長 林



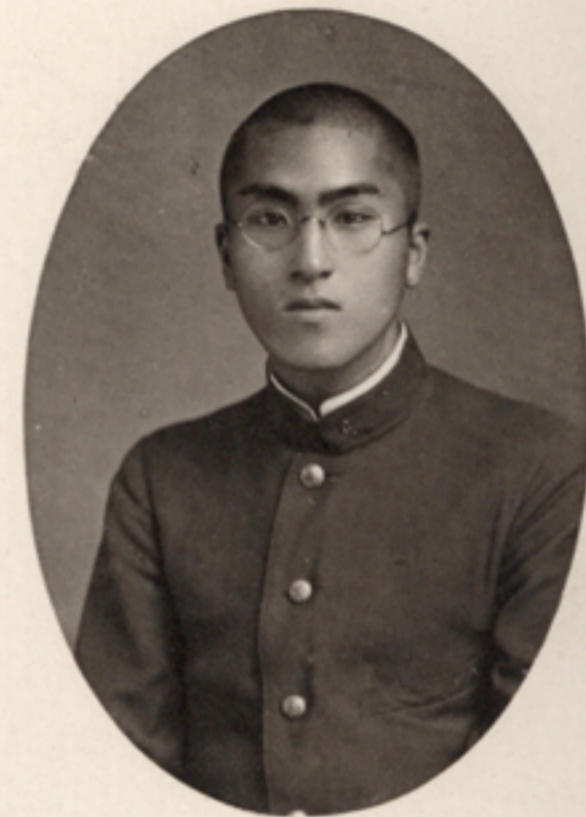
亮 島 飯



一 佐 伴



勝 本 橋



吉 春 本 橋



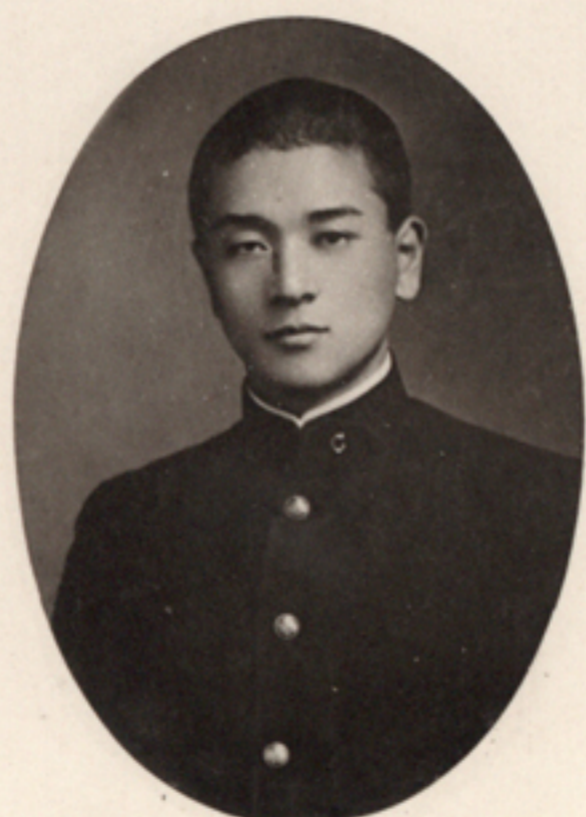
彌 久 星



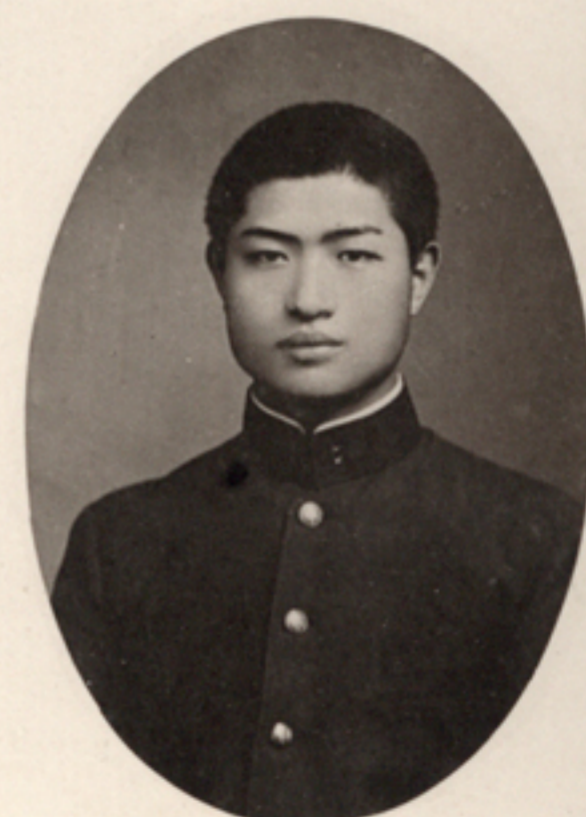
一 正 村 西



作 利 盛 富



雄 虎 田 富



郎 三 彌 井 細



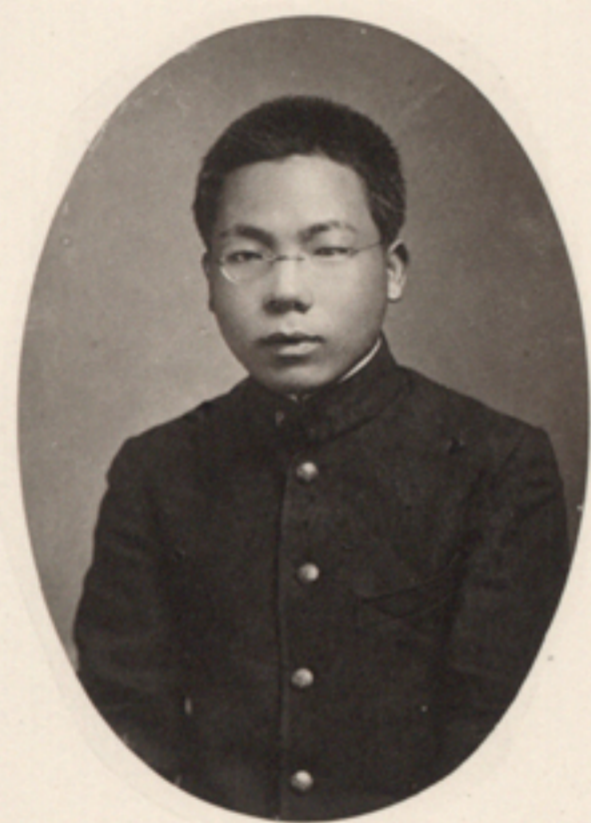
猛 佐 帖



郎 次 忠 主 地



萬 葉 千



郎 太 寅 場 大



雄 行 泉 大



光 塚 大



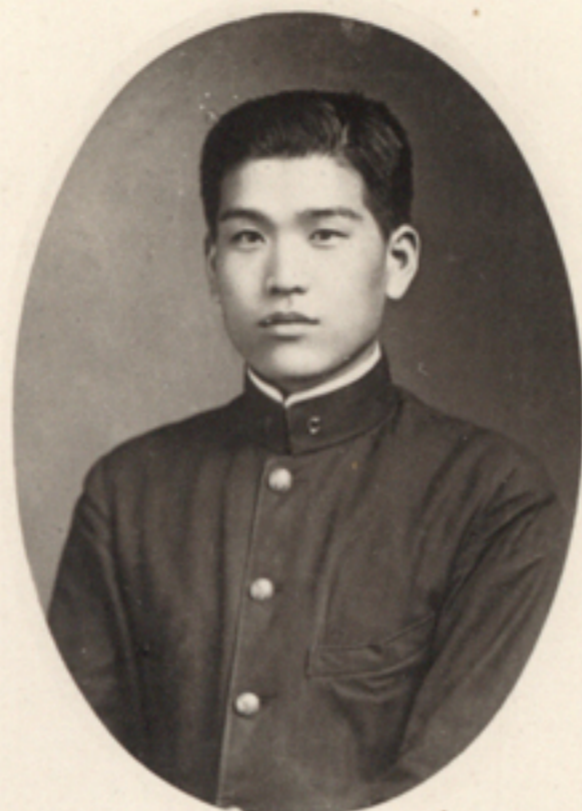
晶 井 大



郎 四 正 幡 大



造幸地黃



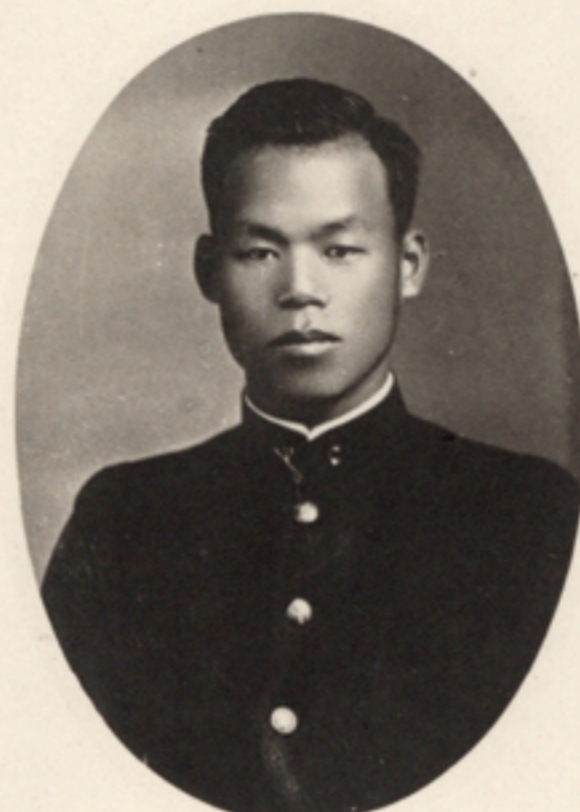
丸久喜島大



郎太壯石大



藏兵原小



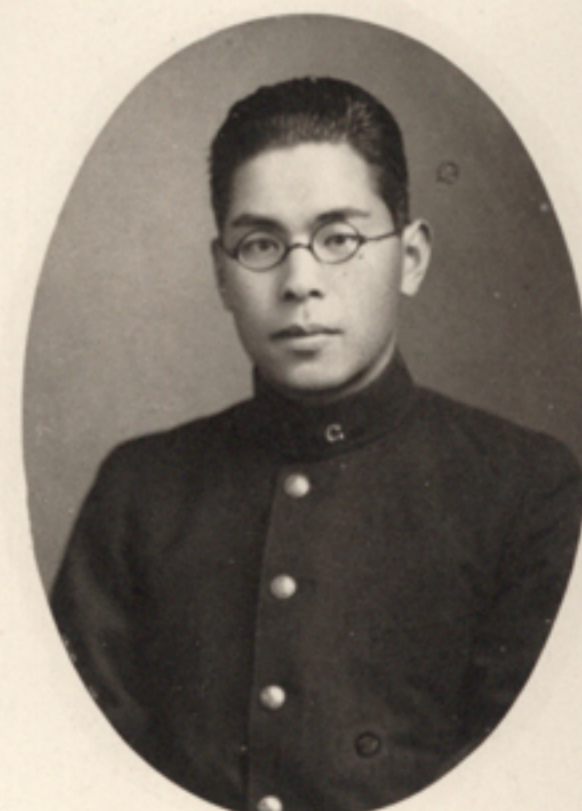
衛正沼小



雄徳林若



吉末寺野小



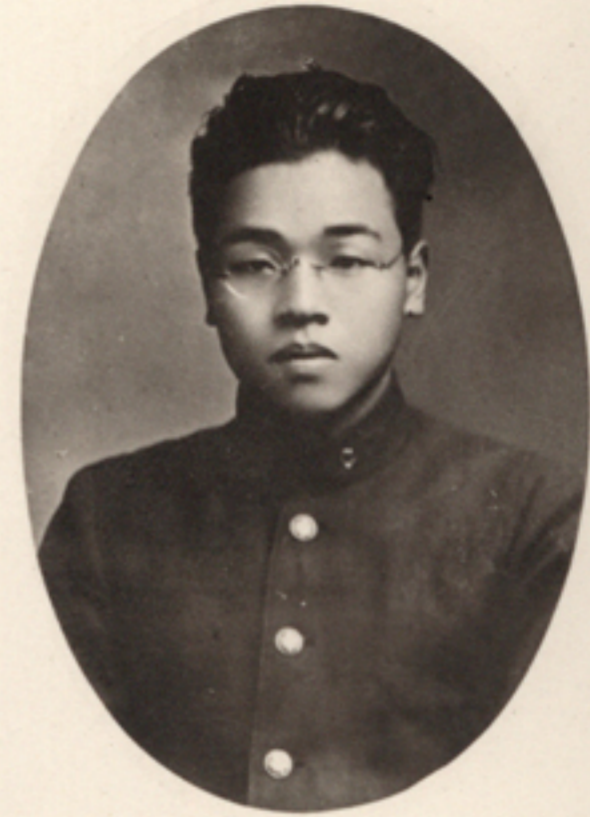
郎二小野小



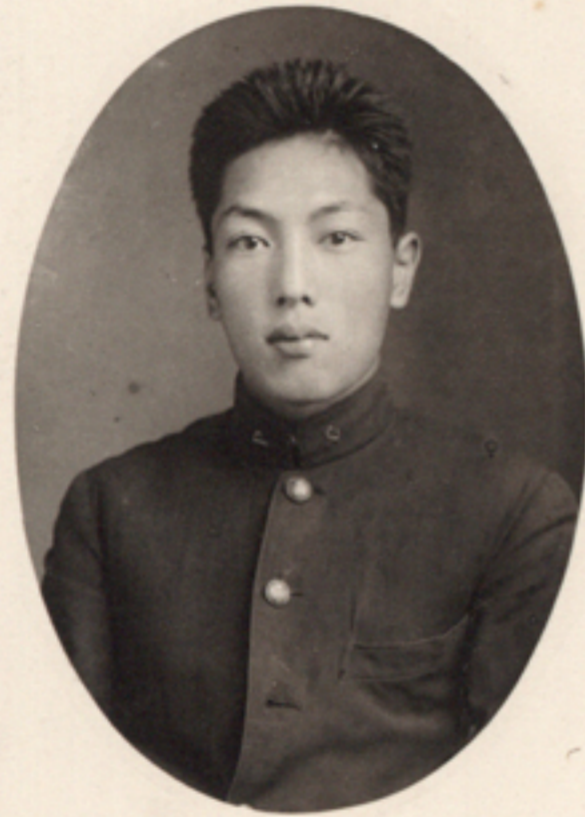
次勢伊邊渡



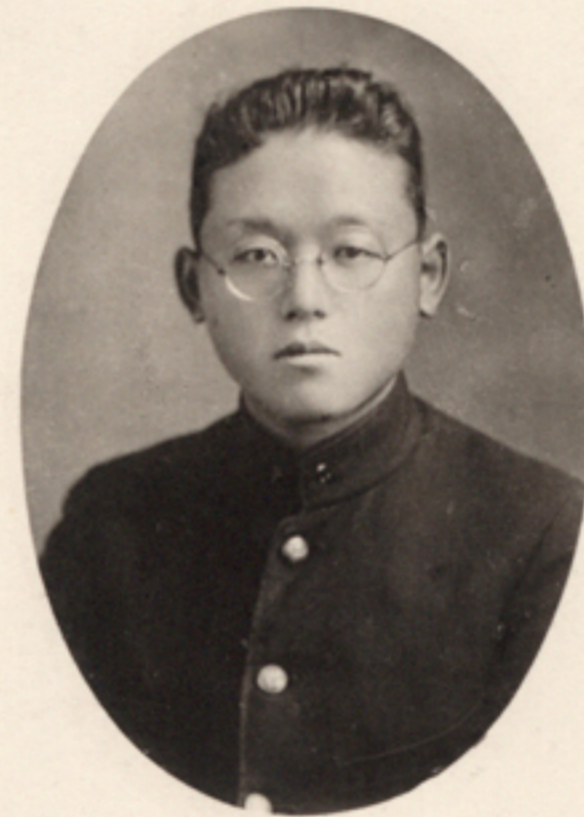
亮松若



嘉峯林若



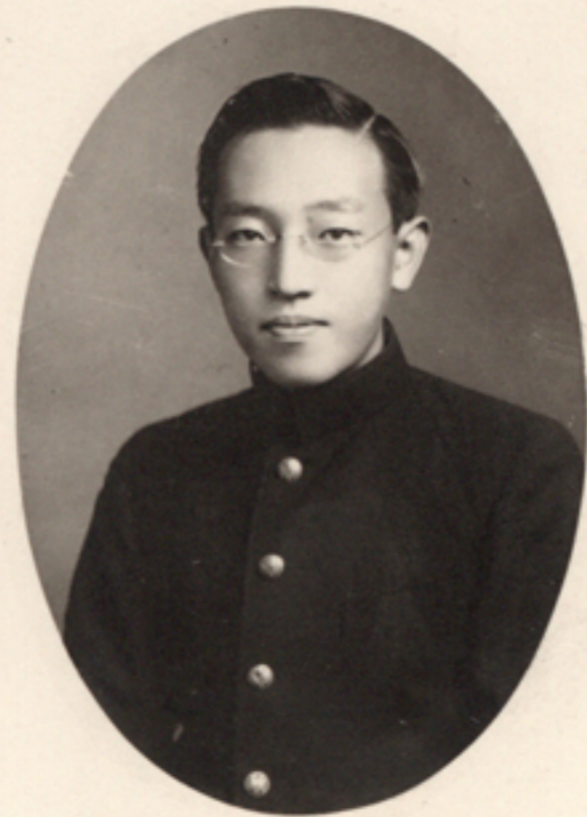
郎一佐田和



彌兵邊渡



司亨川梶



藏良藤加



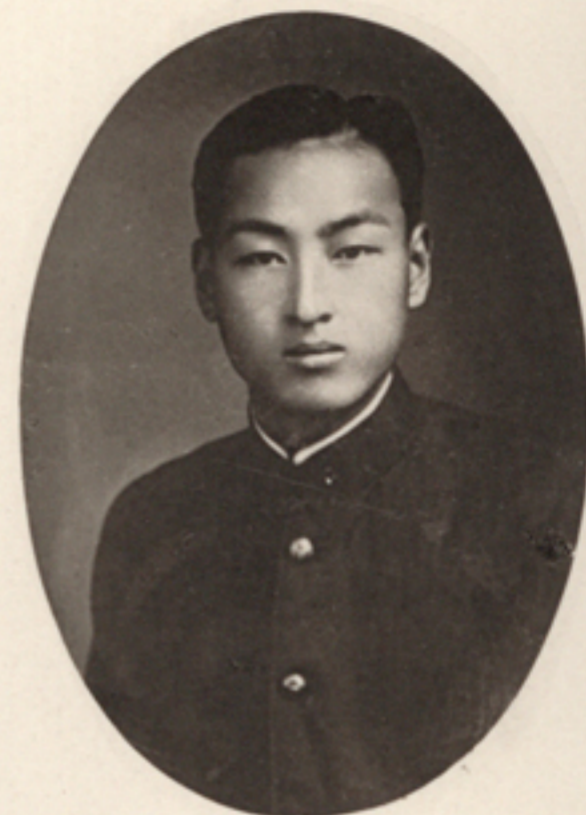
三誠村河



愛信森金



郎太松間風



吉謙山片



朗重來賀



己潔島鎌



治重澤神



三省井笠



徳武西河



三章井吉



三邦田横



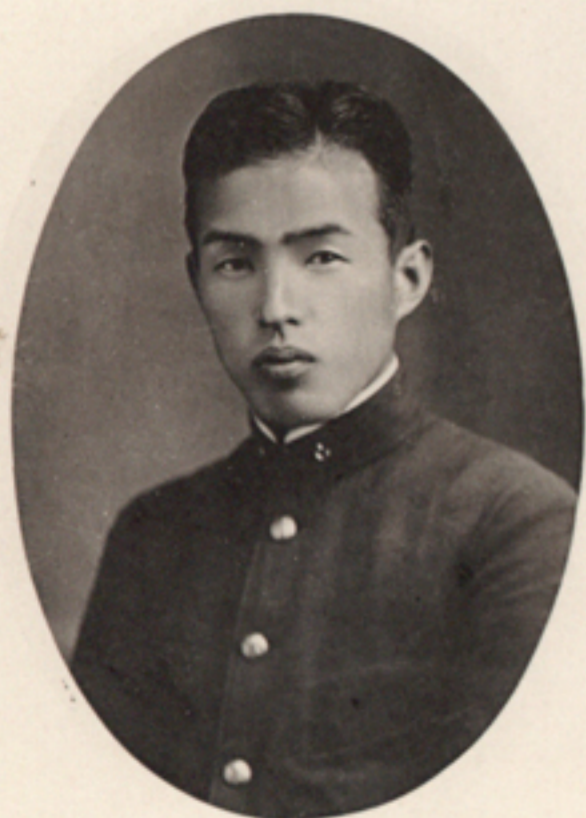
義宗谷ツ四



男利川刀太



郎四原立



一昇中田



輝義木高



茂田高



蔚 村 竹



一 正 田 竹



節 高 岡 竹



太 豊 田 坪



一 義 田 瀧



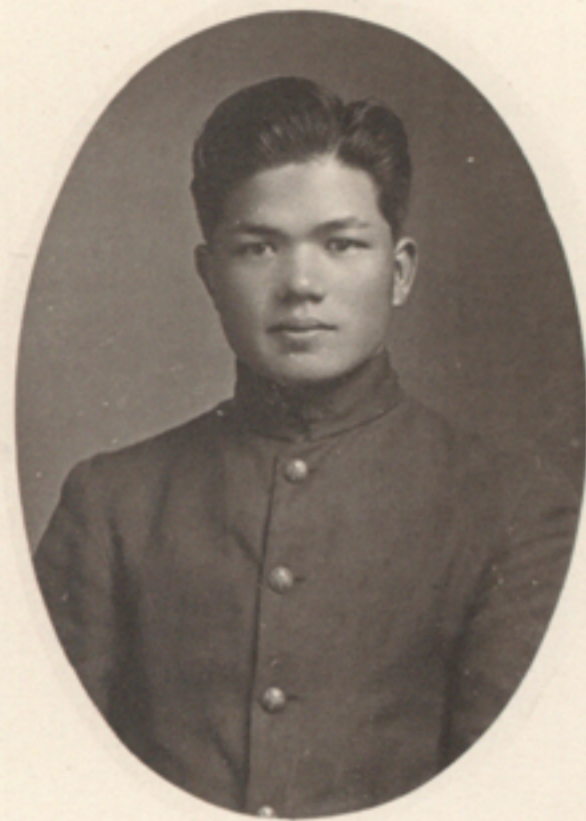
太 三 喜 辻



雄 秀 田 土



宏 野 丹



中 新 田 平



内 藤 万 壽 夫



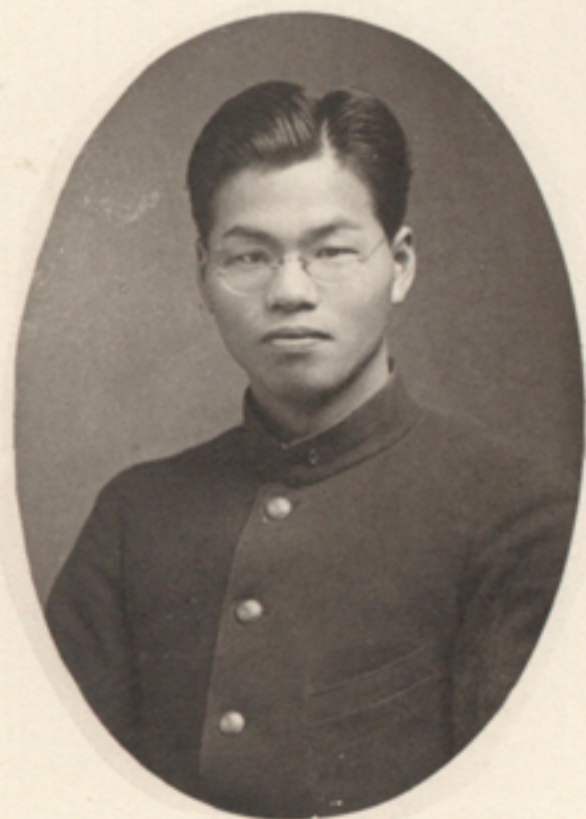
津 山 正 一



中 瀬 秀 一



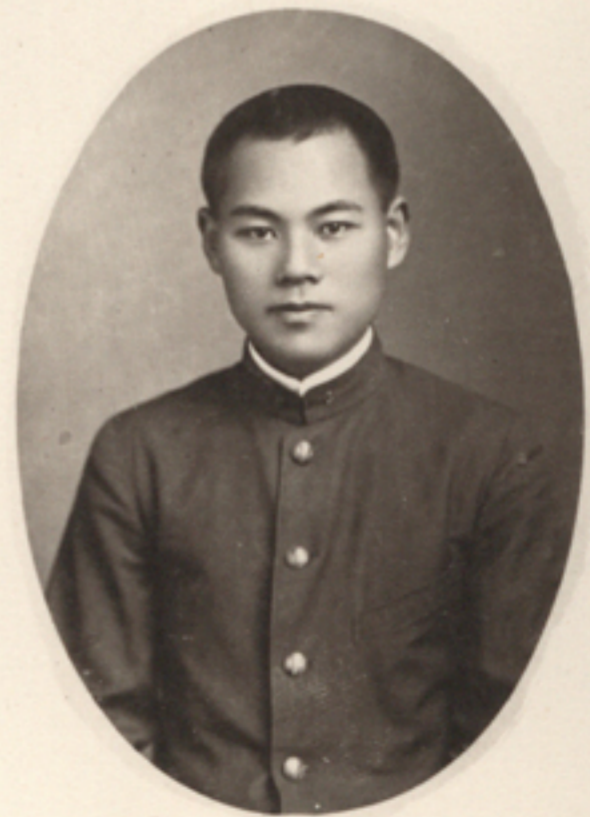
仲 田 留 治



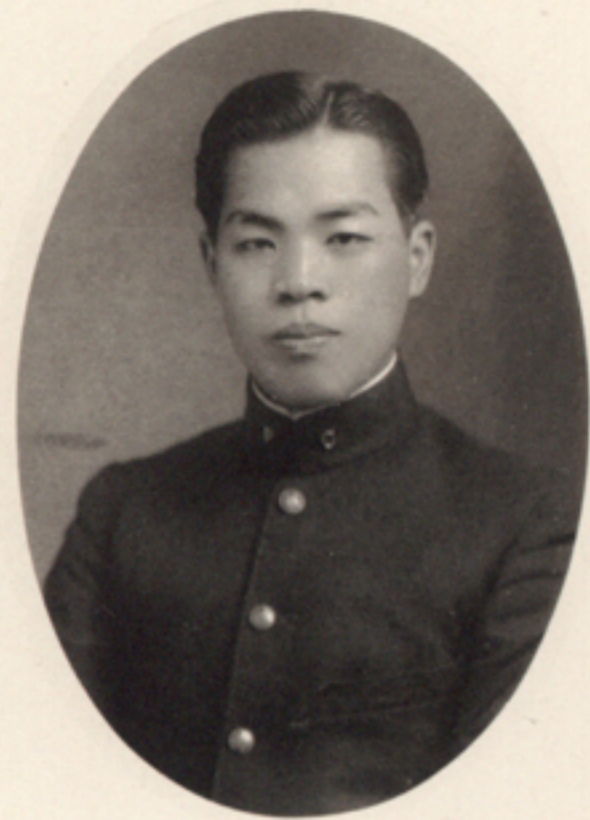
上 杉 彌 一



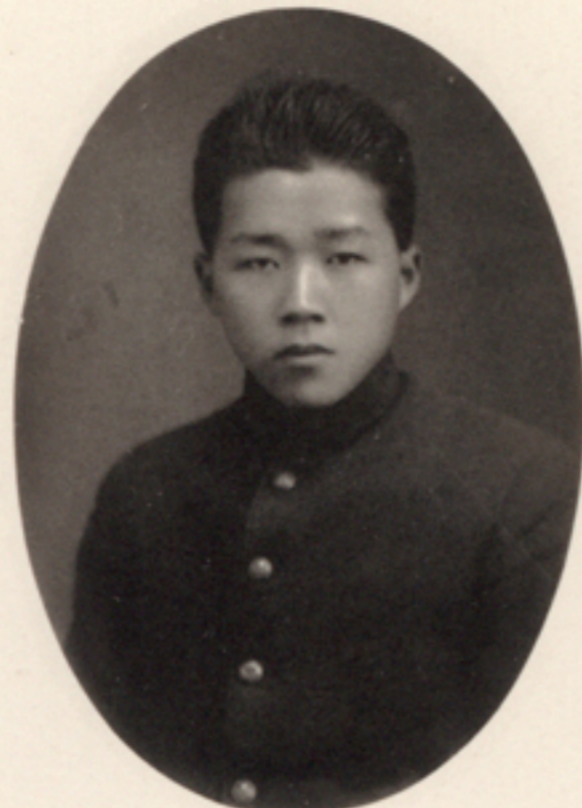
村 上 武 夫



長 塚 弘



野島一郎



野澤愛親



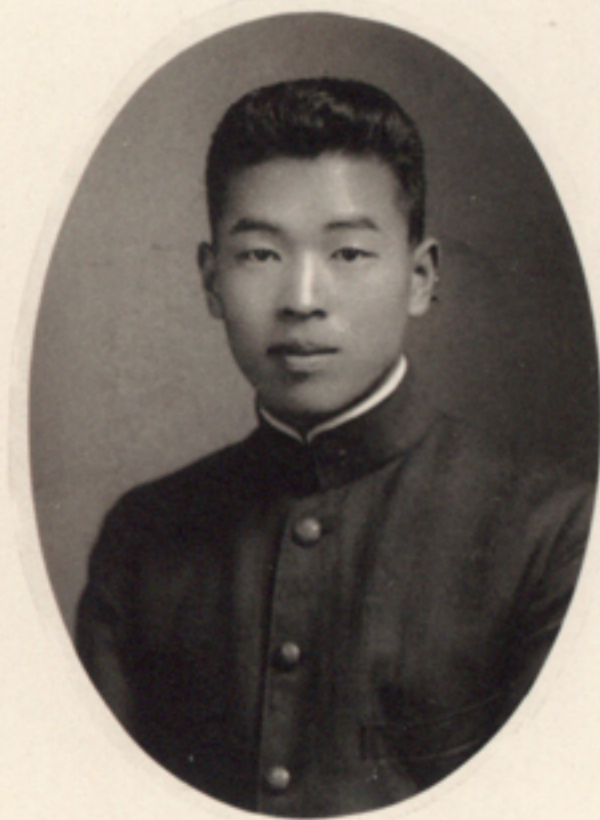
本飲勇



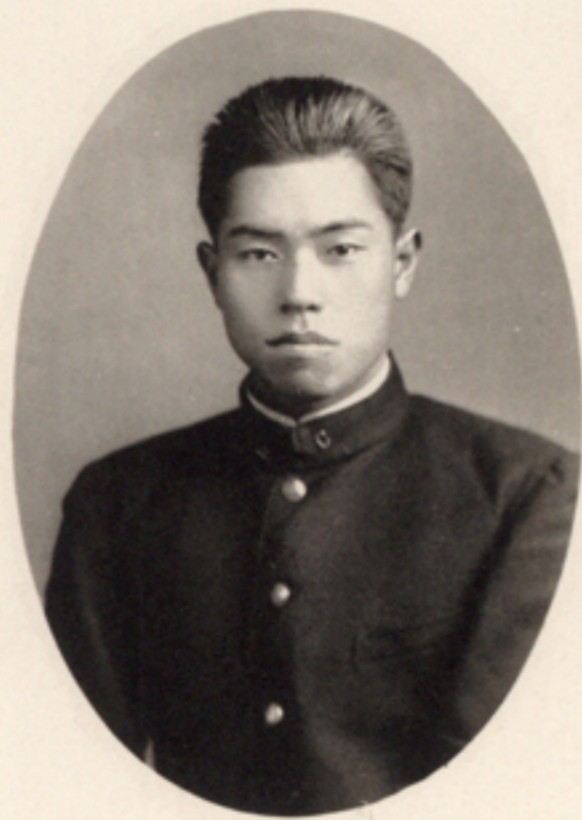
黒川吉雄



野田友輔



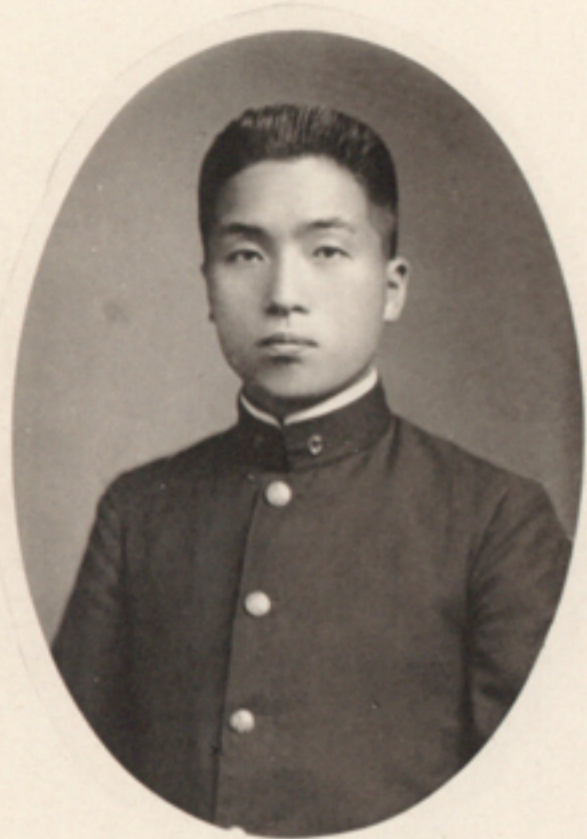
久保大亮



國弘之亮



黒坂邦男



重素刀功



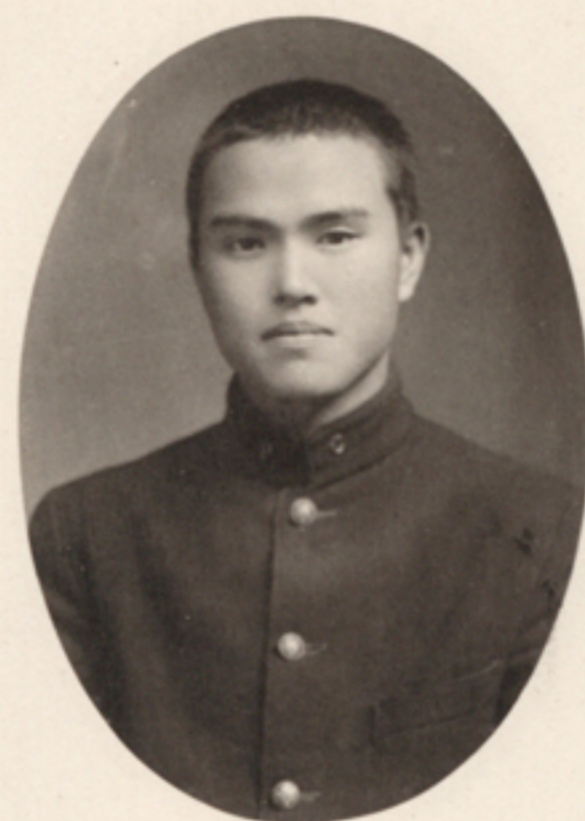
吉重原栗



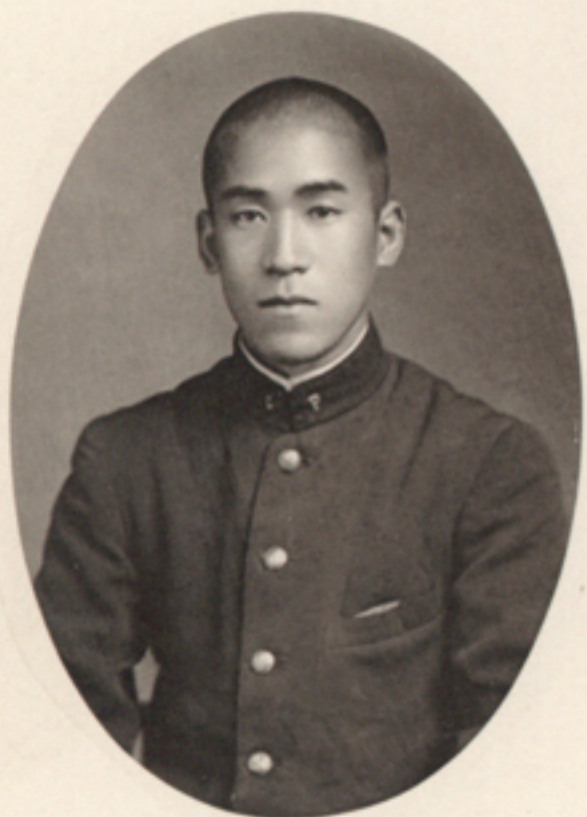
市敬田窪



郎太榮我久



郎三治田衆



治陽田山



三子甲 部田谷



郎二藤幡八



山岸芳治郎



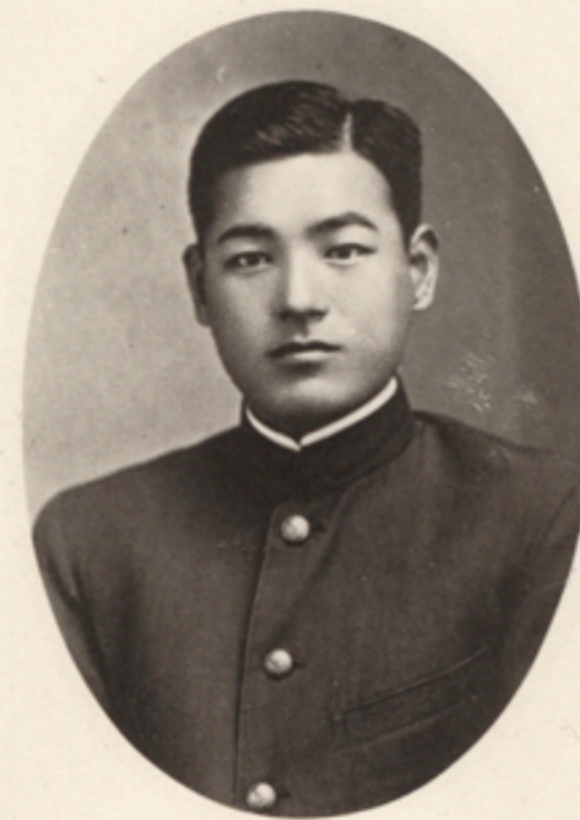
山口春生



山田留治郎



安村義一



山本巖



松本周三



松岡俊一



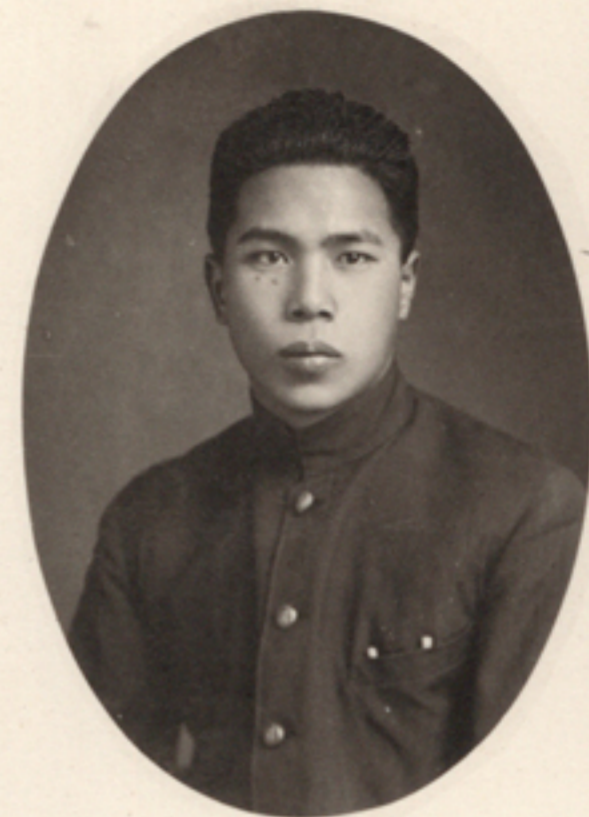
前田茂毅



小 林 北 一 郎



深 津 理



增 子 榮



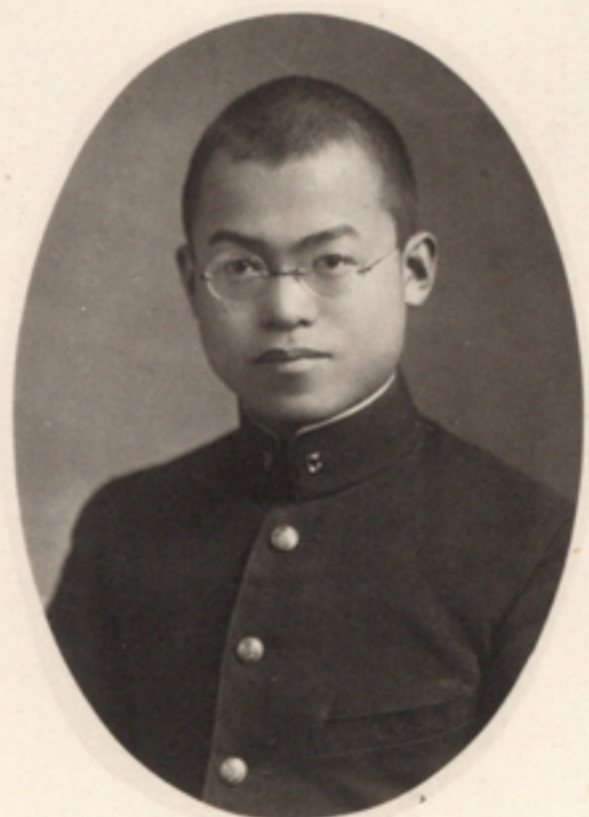
小 橋 庸 三



小 林 利 光



小 關 勇



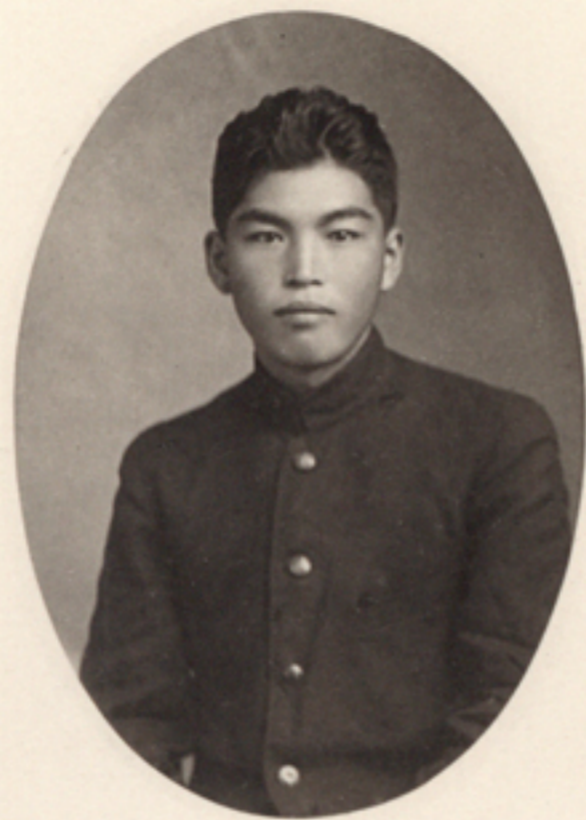
香 田 信 次



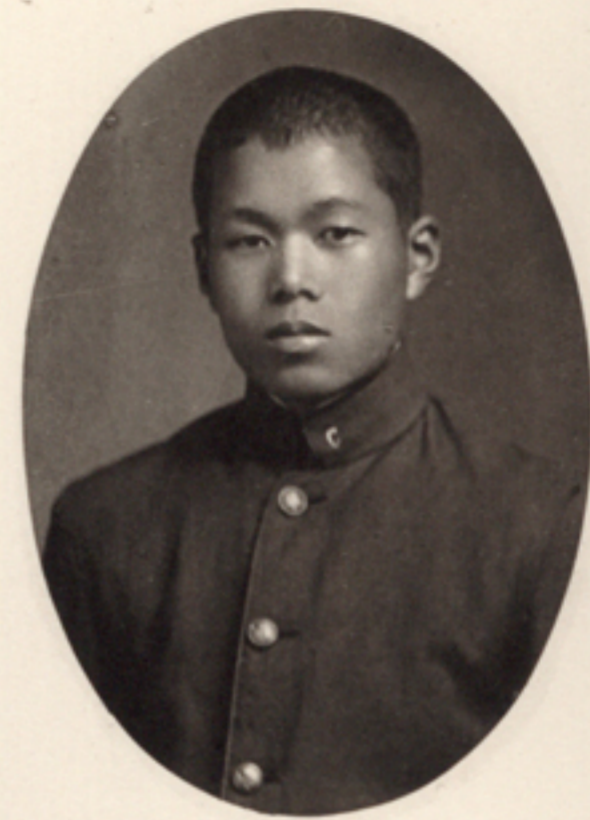
小 竹 泰 夫



越崎宗一



今野吉之助



湖島二郎



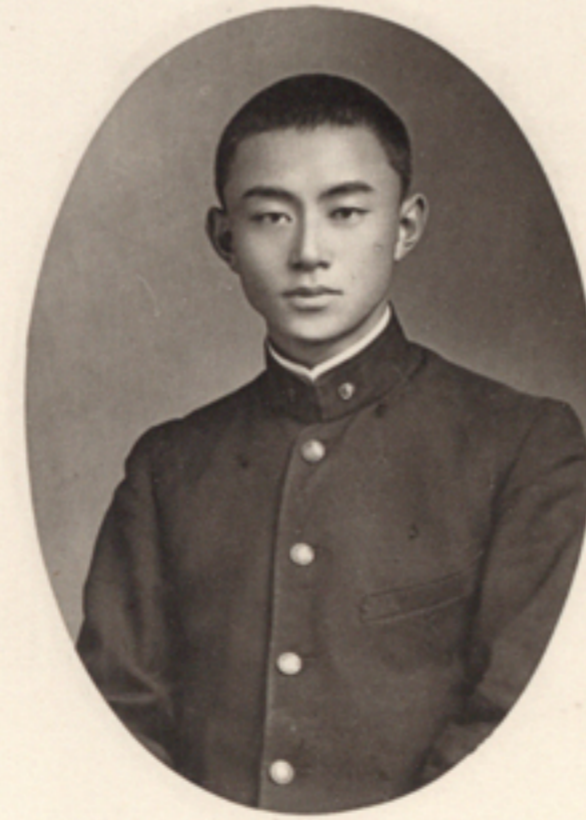
手島龍雄



寺内安夫



秋山富義



安達徹郎



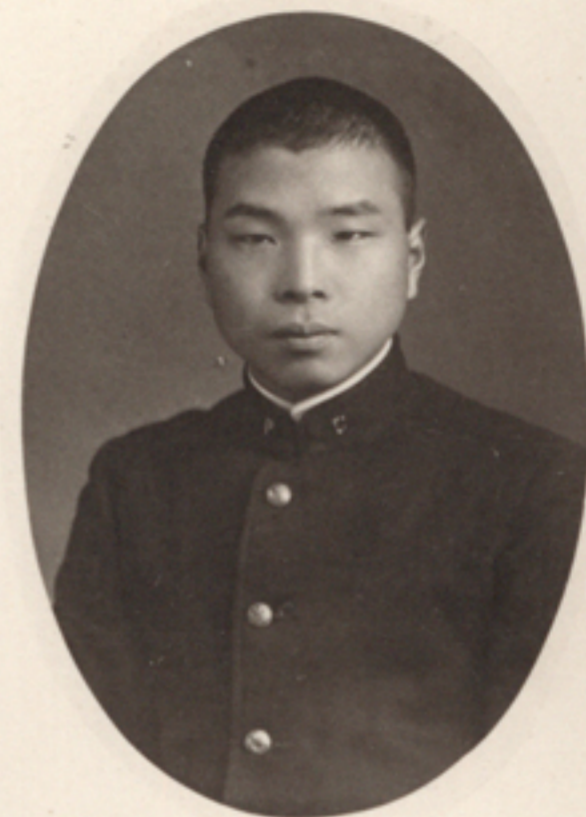
赤坂剛三



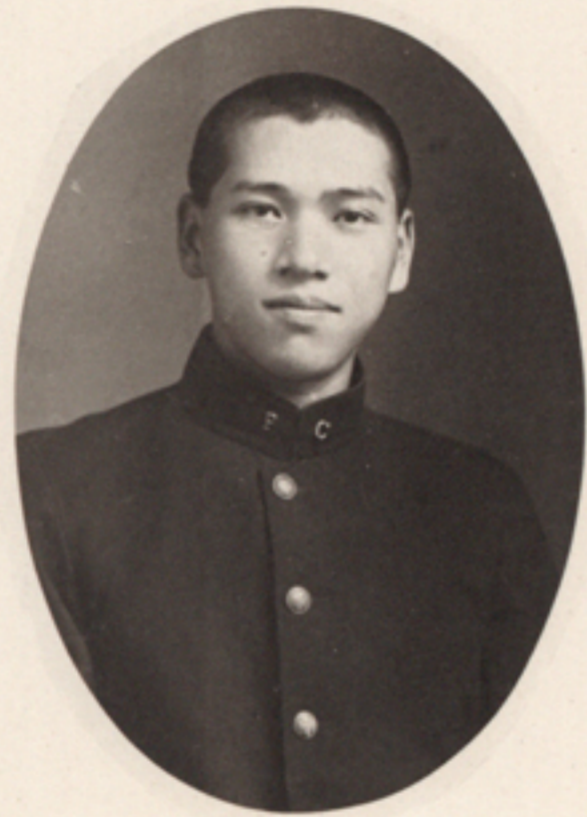
澤田諒平



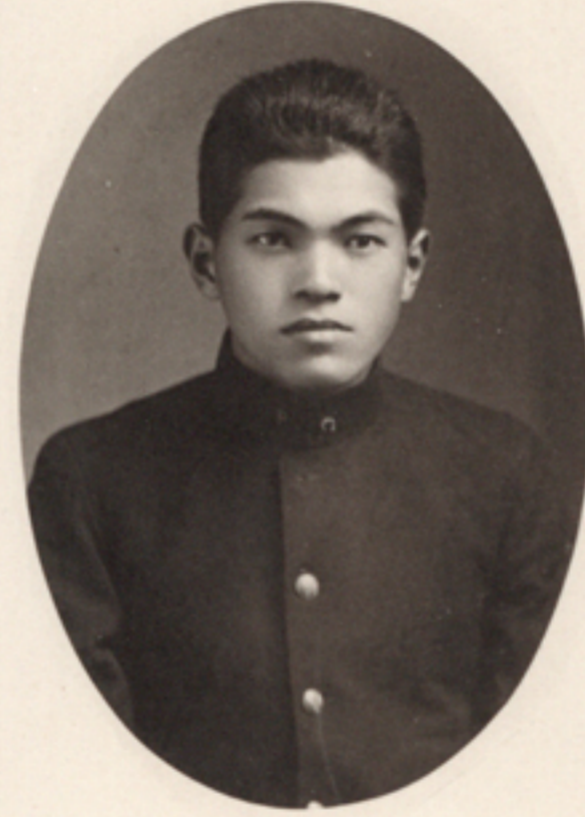
齋藤敏一



相澤正美



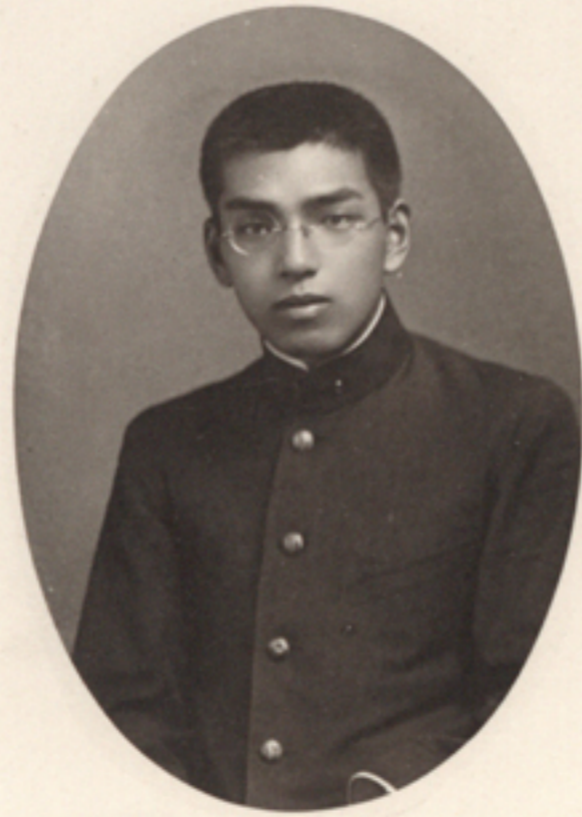
佐藤恒人



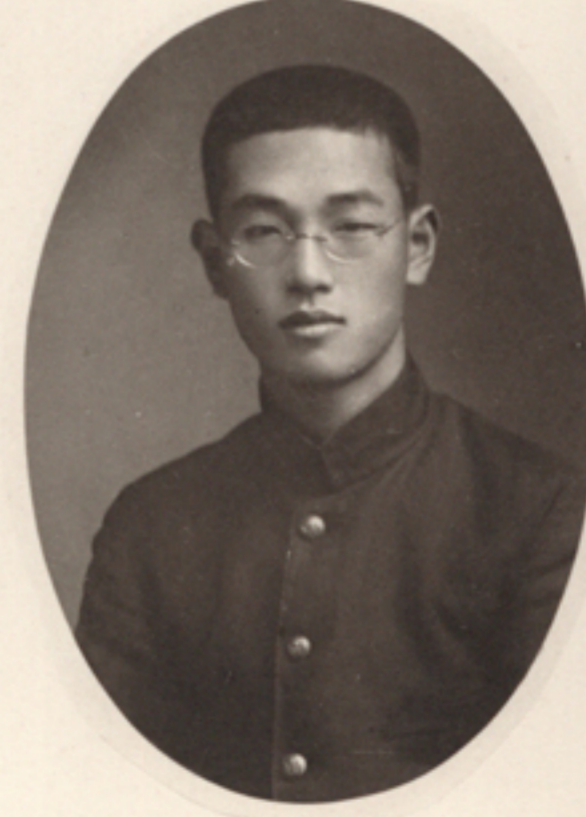
佐藤忠雄



坂井欽一



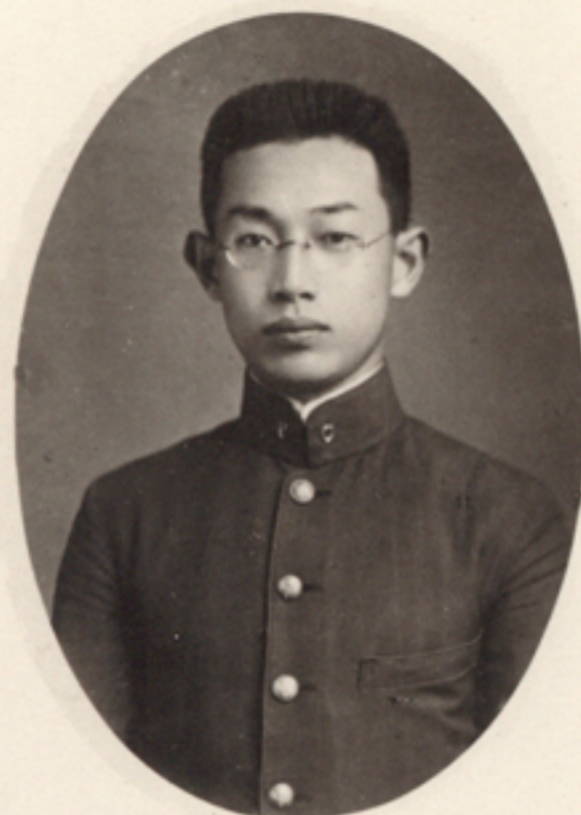
佐藤孝



佐藤精二



郎四平 間久佐



郎一亥庭櫻



夫芳原榊



一綱木々佐



彦清田迫



郎節地菊



雄秀嶋笹



郎七木々佐



郎 徹 村 木



郎 一 輝 村 木



七 慶 村 木



次 音 脇 宮



一 興 島 君



藏 末 地 宮



二 計 島 三



雄 秀 澤 三



白土榮一



城寶政治



柴田靖彦



島田六郎



白鳥源太郎



平澤義則



清水宗兵衛



篠田正男



杉山昌作



須藤幸一



鈴木貢一



横溝悌



鈴木忠夫



辯論部員



庶務部委員



外語部員



編輯部委員



場々道剣



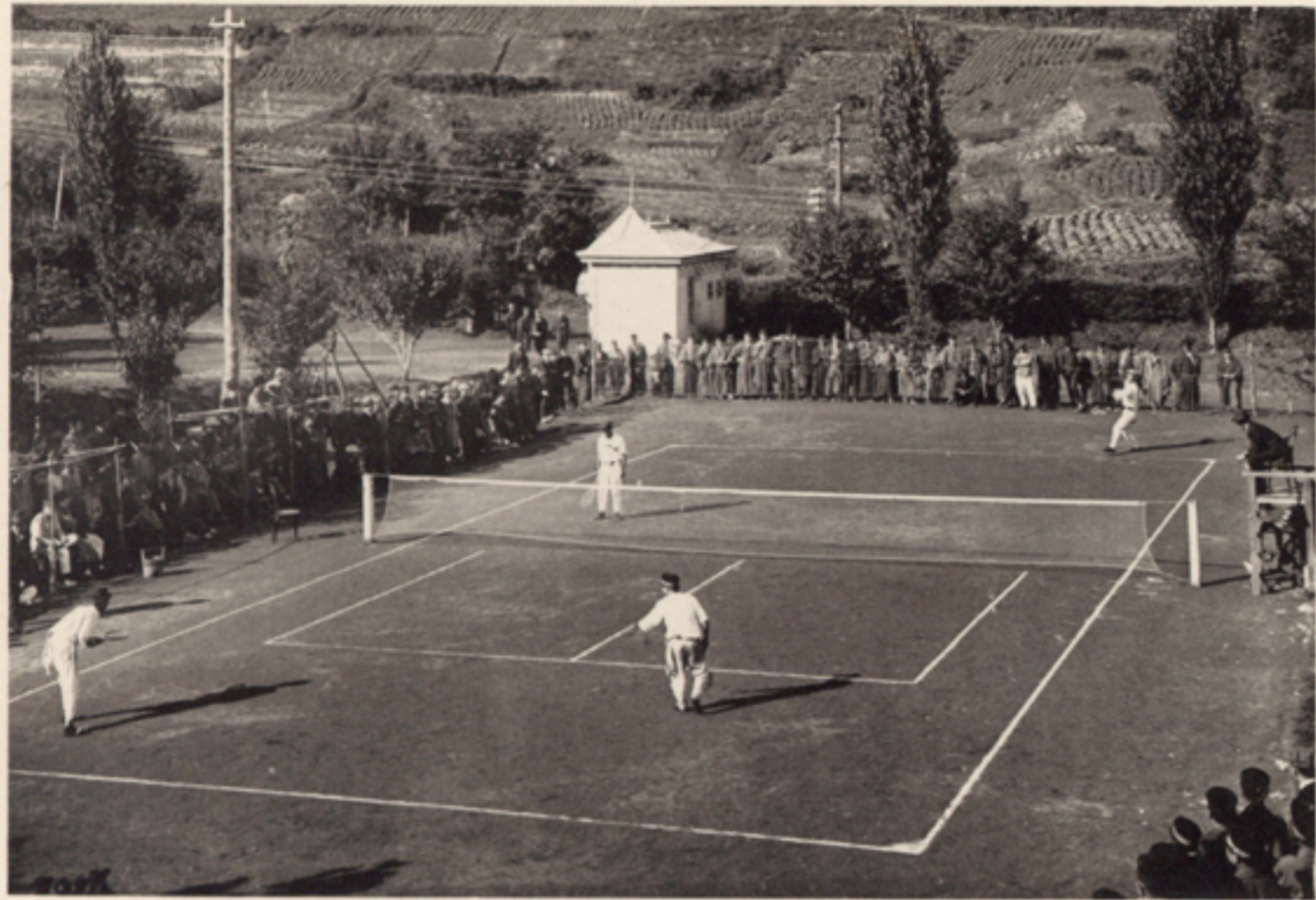
場々道柔



手選部道剣



手選部道柔



戰 大 北 對



手 選 部 球 野



手 選 部 球 庭



戰 大 北 對



角力大會



角力部選手



弓術部員



弓術大會



員々部一キス



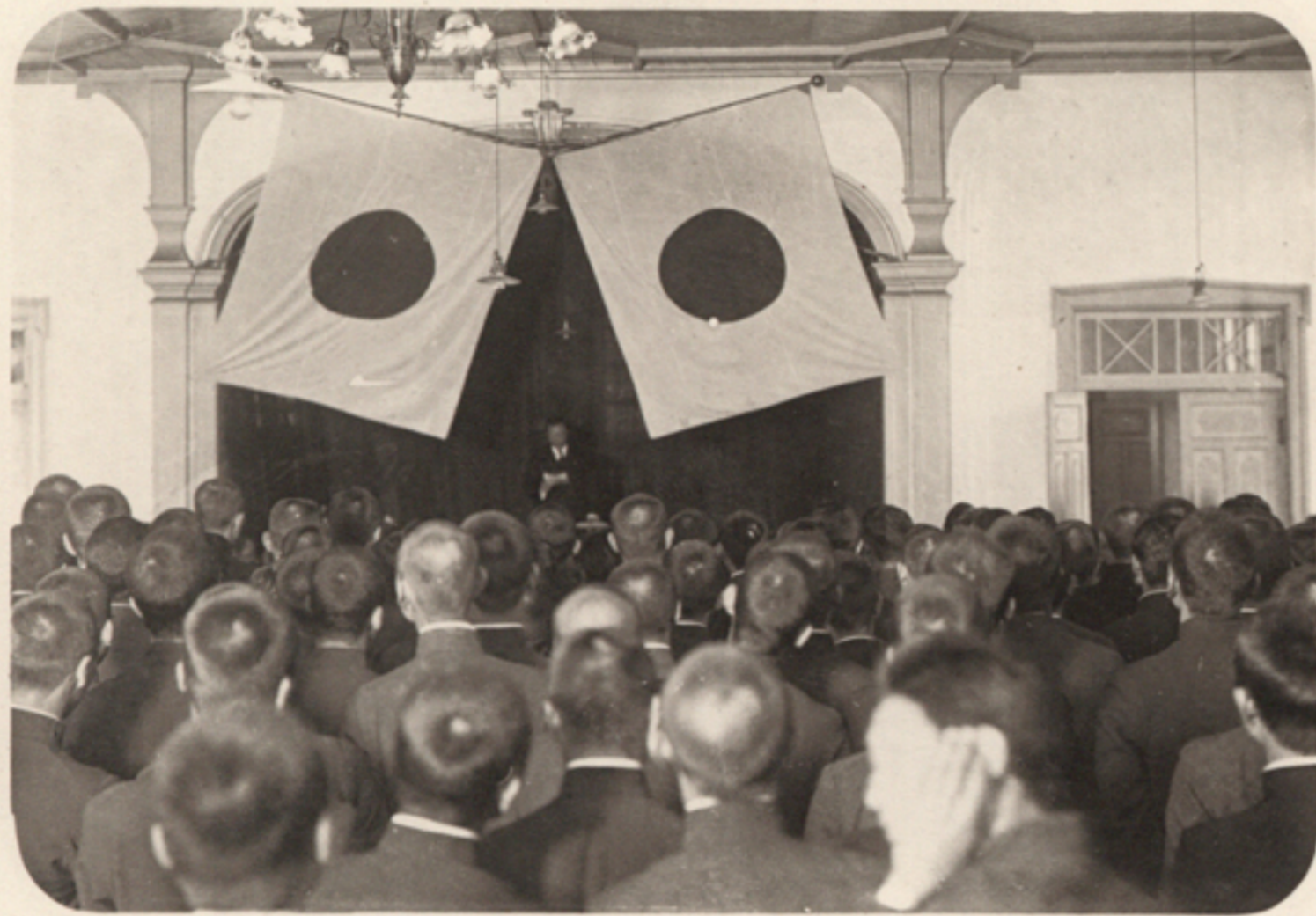
會大部球職



習練一キス



手選部球職



式念記年週十



(英)「々神の山」



會演講念記



員委祭念記



(支) 『戦之壁赤』



(獨) 『スノンハヨ』



(佛) 『族貴人町』



(露) 『帝皇ンヅイ』



本校創立五十周年記念
 本校創立五十周年を記念して、
 本校の歴史を振り返ると、
 明治二十九年（一九〇六年）
 創立された本校は、
 五十年来、
 教育の発展に努め、
 多くの卒業生を
 送り出した。この間、
 多くの先生と
 生徒が、
 本校の発展に
 尽力した。この
 五十周年を
 記念して、
 本校の歴史を
 振り返ると、
 多くの先生と
 生徒が、
 本校の発展に
 尽力した。この
 五十周年を
 記念して、
 本校の歴史を
 振り返ると、
 多くの先生と
 生徒が、
 本校の発展に
 尽力した。



記念校内装飾



(會大部球野)



(飾裝場工踐實)



(蹴球部大會)



(員委飾裝)

祭念記年週十



(部道劍)



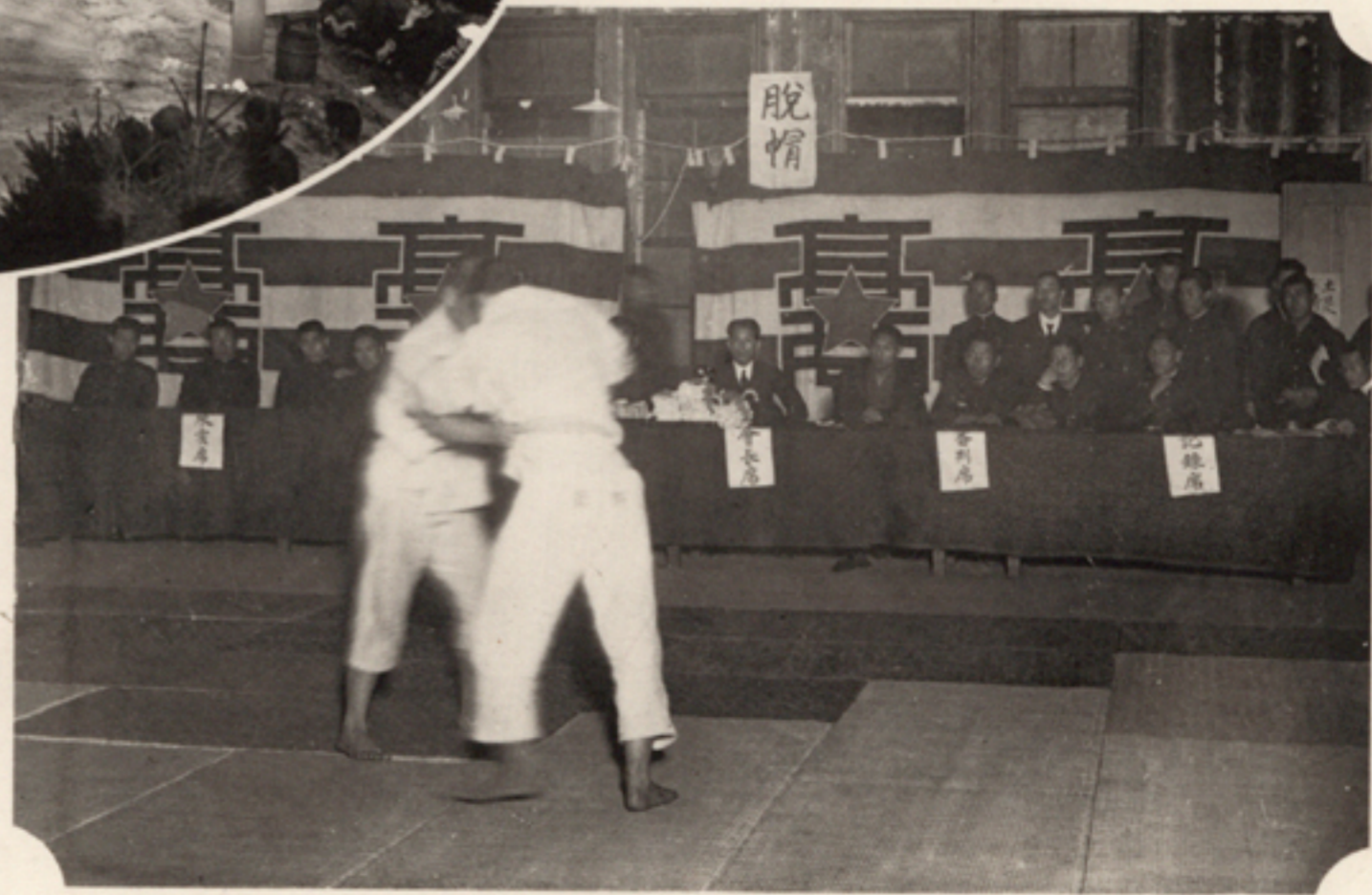
(部球庭)



(部力角)



(弓術部)



(柔道部)

會大部各祭念記



會 動 運 念 記



會 動 運 念 記



團 援 應



列 行 灯 提



部 幹 團 援 應



宴 夜



察 行 文



察 斗 北



察 井 玉



察 氣 正



大泊にて



室蘭にて



網走にて



員委ムバルア



景風樽小



胸毛を震はして居た軒端の小雀が卵を幾つか産んだ。おどおどしたまなざして四方を見つめて居る。最も自然なことであり當然なことであるのに無精に怖れたいのいて居るやうなその眼よ。何日かの後だつた。卵が孵つて餌を漁り求めて歩いた苦しきも忘れて、彼女は巢立ちする子雀を親しげな調へる眼で眺めて居た。香しくなかつた去年の跡をうけて新しい寫眞屋を相手に、みんなの色々な要求に従はうと私達はたくさんの改めを企て、よりよいものを作らうと常に力を盡したつた。今面目を改めたアルバムを見る時直ぐ親の下を去る子雀のそれはあるが、私達は手をとつて育てあげた創造の喜びを感じる——よく出来て當り前、少しでも悪く出来たら難ぜられる辛い私達の身を憐れみ乍らも。

— ぢぬし —

この思出多いアルバムを——
二年経つて纏いて見給へ。君等はそこに限りない人生の流轉變化の幼い萌芽が既にきざして居るのを見出すでせう。五年経つて、又十年の後に開いて見給へ。君等はそこに光蔭の流れをかこつ悲しみと、現實の人生を見せつけられる哀感との交々襲つてくるのを感じるに難くないでせう。紙屑屋にも賣拂はず子供等にも破られず、鼠の玩具にもせられずに保存して居る人が若しあるならば、私はその人に申します。三十年後にもう一度それを見返して下さい。そうして君等はそこに何を見出すでせうか……

若し君等のうちに其程過去の追憶に忠實な方が一人でもあつたなら、願はくは友よ『アルバム委員』など言ふ此の上もない名譽な役目を仰せ付かつて、君等の顔を見る毎に

『アルバムの代金を拂つて下さい』
と一種あはれむべき聲で物乞ふやうな催促を怠らなかつた男達を思ひ浮べて下さい君等の故郷から爲替がつくの待ち構へてアルバム代を支拂はせ君等にピル代を心細くさせたあの男共を思出して下さい。そして又『アルバム譲約金拂込期日切迫』などごさごさ文句を黒板へ書いたオールバックの男も思ひ出して下さい。

それは美はしい過去の追憶です。幻のやうな繪巻物です。一度きり二度とは決して繰り返されぬ人生に私達が刻んだ足跡が即ち、それなのです。あんまり感傷的ですけれども、實際二度とは繰り返されぬ人生の足跡——それも私共自身が決めた歩みも刻みつけたのです。一度去つたことは再び立ち戻つては参りませぬ。之を讀んで下さる友達も知つて下さい、過去の願望を表はす形は、常に『サブジャンクチャ』であることな。

— 幽季夫 —

洋傘に手拭を巻付けたのを目印として迎へに来てくれる苦の寄宿の委員らしい人は見當らなかつた。色々な人が様々にいふ言葉も聴かずにボンヤリと私は歩き廻つた。車屋は例へば冬鳥の様に群りわめいた。兎も角も行李を受取つて私は車屋と一緒に歩出した。雪ごけの道になれた私にも小樽の雪ごけはあまりにひどかつたし、それに落葉松の色といつたら……私の心は全く滅入つてしまつた。すつかり車屋を頼つて何かと質問しながらも、とんでもない所へ連れて行かれやしないかと不安な氣もした。

寄宿生活が始めての私は何かにつけてハラハラする事が多かつた。それにうちから送つてくれた夜具が停車場の手抜りて十日以上も遅れて着いたので借夜具し

△山裾のみどりカツキ菜の花の

目にはろばるとゆたたくひろ野

△みるにみるに廣野のみどりトツシリと

エルムは太く逞しくあるぞ

こんな事も書しるして置きます。外では今すさまじい嵐の音がします。早く春になつてくれればいゝと、お別れの日も忘れて、思つて了ひます。

— かもめ —

やれ高價すぎるとか、買はないぞとか大分皆さんの非難不平の標的となつた私達の卒業アルバムも愈々新装を疑して出来上りました。兎にも角にも永久に記念すべき私達のアルバムが斯様に美しく出来たことを私は皆さんと俱に喜びたい。見給へ、威風堂々たる我が鎌ヶ丘學園と恩師諸賢、それから若々しい未來を持つた私達兄弟が並んで居るありさまな。

私達百五十の兄弟はこうして我小樽高商を通じ此の一卷に堅く結びつけられて居ります。(たゞこの中には已に亡き一人の友が入つて居ます。彼と私達とは今や幽明處を異にして居ます。然しこの三年間俱に學び、語り、遊んで彼の魂は私達のと結びついて居る筈です。私達は彼だけ一人ぼつちにするに忍びませんでした)然しこゝ暫くの中には皆お別れしなくてはなりません。私達は新しい生の首途として晴やかに出て行くでせう。があの長い——地獄坂も再び踏のサージの制服に星を戴く帽子をかぶつて通學することは無いのだと思ふと何となく別離の悲しみを覺へます。でも仕方ありません。もう時が来ました。私達は別れなければならぬのです。多くの兄弟の中には遠く海を越へて異國までも散ばつて行くものもありませう。そして幾年かの後にはみんな其の境遇も何もかも變つて終つてせう。然しその時でも私達はこの一卷に包まれたやうに飽くまでも互に一つに結び合つて居たい。白樺の森に立つ我が學園は決してみんなの頭から消え去らないでせう。そして太い追憶の線をまざ——と諸君の胸程に描き出すでせう。どうか其時には皆さん、この一卷を纏いてありし日のことごとをも思ひ出して下さい。

— 越崎 —

アルバムの調製——國への『スウェーデン』として、又鎌ヶ丘の生活を記念するものと随一としてのアルバム自体のもつ意味の重大さを考へ、又それに要する費用の巨額さと時日の長さを想ひめぐらすと、それは並大抵の仕事ではありませぬ。殊に私のやうな力の足りない、そして小さいことに迄よく氣をもむ性の者にまつては随分な重荷でした。大膽にも引受けはしたもののうまく成りし得るかどうかと思ふと中々氣が氣ではありませんでした。今迄のアルバムのやり方を嫌く思つて色々革めたこと——先生達に皆一部づつ贈呈してゐたのを廢止し、寫眞の並べ方や頁の編みかたを變へ、數葉ながらも町や森野の風景を添へて、學校のみならず『小樽』をも懐しまうさし、又出来るだけ多くの寫眞を入れて頁をウツと増したり、且つは本校創立以來ズット高商アルバム専屬のやうな形になつてゐた寫眞屋を廢めて新しい所へたのんだこと等は却つて出来上りの如何を不安がらせるのでした。殊に寫眞屋をかへたことは一通りや二通りの心配ではありませぬ。アルバム等作るのは初めてだと寫眞屋はいふ。果して自分の思ふやうなものを作つてくれるだらうか。途中でへこたれはしないだらうか。若し今迄のアルバムよりまづ出来たら如何じやう。『寫眞屋をかへたりなせればよいのに下らない變革などするものだから』と去はれたら自分はそれに何と答へやうかしら——本當にアルバムのことを考へると安い氣はしませんでした。

でも皆さんのお援けによつて幸と之だけのものが出来上りました。私は今之を皆さんの前に提出しやうとしてゐます。出来栄への如何は直接アルバム自体によつてお答へする外ありません。そして不備不潔な點については只管に皆さんのお恕しを乞ふ次第であります。が然しこゝに只一つ、私達は此の仕事に就て私達の全力を注いだことを躊躇なくいひ得る、その點に多少の自己満足と微かなほこり

とを持つことが出来るのです。それが私達としては諸君の批評の如何に拘らず、せめてもの慰めです。
あまつては多分このアルバムも皆さんの手にお渡しすることが出来るでせう。やがて暫くの後にはみんな之を携へて南へ北へ、西へ東へと別れ去つて終ふのです。いざ別離となれば鎌ヶ丘の生活もたまらなく懐しい。三年さいふもの私達を導いて下さつた多くの先生や、日々俱に——學んだ同窓の皆さんに、さては我が愛憎とに無限の愛憎を感じないで居られませんか。それ等の凡てに對つて將來の健在と發展とを祈りながら私はこの筆を措かうと思ひます。では皆さん、左様なら最後に表紙の意匠は校友日南田美文君に、扉頁の時は『かもめ』さんに、及びアルバム委員として終始多大の御盡力を下さつた——地主、大泉、加藤、野島、功刀、越崎、笹島の諸兄に(私としての立場から)厚く感謝の意を表ひたい次第であります。

— まよう作 —

大正十一年三月調製

アルバム調製委員

調製者 杉山昌作

撮影者 小樽區花園町東三丁目三九番地

小樽寫眞館

印刷者 札幌區大通西五丁目一番地

中西印刷所

小樽高等商業學校
第九回卒業生一同